

# きょうしつ ステップ教室たより

日野市立潤徳小学校  
令和7年11月5日  
特別支援教室【ステップ教室】

様々な木々の葉が舞い落ち、秋も深まる頃となりました。運動会という行事を通して、子供たちは、最後まであきらめずに頑張る力や臨機応変な対応力などを身に付け、また一回り大きく成長したと感じています。大人も子供も疲れがたまってくる時期です。こんな時こそ、子供を褒めることを意識してみませんか？今回の教室たよりでは、褒め方について紹介します。2学期後半も、子供たち一人ひとりに寄り沿った支援を行っていきます。

## 褒め上手を目指そう！

日本人に多いとされる『自己肯定感』の低い子供ですが、「褒め不足」が原因ではなく、「非効率的な褒め方」が原因となる可能性があります。普段何気なく使っている「褒め方」ですが、褒め方によっては子供に不安やプレッシャーを与えること、モチベーションが下がる原因になったりと、様々な弊害があるのも事実です。少し意識をして言葉を変えてみると、子供とよりつながることができるようにになります。

### 褒め方の種類

おざなり褒め：具体性に欠ける、表面的な褒め方・・・「すごいね！」、「上手！」など



人中心褒め：性格・能力・外見といった表面上の特徴を中心に褒める・・・「頭がいいね。」「かわいいね。」など

プロセス褒め：努力・過程・試行錯誤した手順を中心に褒める・・・「失敗しても諦めなかったね。」「いろいろな方法を試したね。」など

「おざなり褒め」や「人中心褒め」ばかりになると、子供は褒められるためだけに行動するようになったり、周囲からの評価が下がることを恐れ、失敗を避けるようになったりします。ではどのような褒め方が効果的なのか、褒め方には3つのポイントがあります。

### ポイント①：成果よりのプロセスを褒める

能力や性格を称えるのではなく、取り組んでいる過程での努力や挑戦した姿勢、やり方を工夫した点に言及し、はげましてあげる。

### ポイント②：もっと具体的に褒める

「すごいね！」と言われても具体的な理由なしでは自分の優れているところ、努力が必要なところが分かりにくい。

### ポイント③：もっと質問する

「褒める」とは大人の評価です。大切なのは子供自身がどう感じたか、どう思ったかであり、大人がどう思うかはそれほど重要なことではありません。

例：○字が上手に書けたとき

「上手だね！」→「集中して丁寧に書けたね！」

○お手伝いをしてくれたとき

「さすがお兄ちゃんだね。」→「自分からやってくれたんだね。」

○発表会などがうまくいったとき

「すごい良かったよ！」→「毎日たくさん練習していたもんね。」



「褒め方」を変えることは、お子さんに対するイメージを変えるチャンスです。ぜひ参考にしていただき、いろいろな褒め方でお子さんの成長を価値付けていただきたいと思います。